●SOIC　2014 年度　活動方針

京炎 そでふれ！国際交流推進プロジェクト「SOIC」は 2012 年 2 月 22 日より発足した。
2013 年度の活動を終え、来年度を迎えるにあたり、活動方針と理念について整理する。

〇何故国際交流を行うのか？

・京都学生祭典の本質である学生による地域交流の活性化を、より広い意味で達成できる。
・京都学生祭典、京炎そでふれ！の留学生や海外へのさらなる普及を行い、京都学生祭典と京炎そでふれ！をより社会に認められた、より誇ることのできる活動にできる。
・国際色豊かな京都だからこそ、外国人との交流による学生自身の国際人への成長が望める。

〇京都学生祭典の国際交流の行く末として、いつかこうなる活動にしたい

京都は滞在する外国人数が日本中を見ても非常に多い。そのことは京都市の留学生数(2011 年度全留学生数の 6%、割合としては東京、大分に続き 3 位、年々増加傾向)や、外国人観光客数(2011 年度、日本では東京、大阪に続き 3 位であるが京都市民との比で数えると一番多い)を見ても明らかである。しかし、実感として滞在外国人は多いが、地域の人と外国の方々との交流が盛んであるかというとそうではない。
観光地には多くの外国の方が見受けられるが、それでは不十分だと自分は感じる。
京都の魅力を世界に発信するというのは、単に京都の寺社仏閣など形ある文化を発信するだけでなく、京都ひいては日本の気質や考え方など、形なき文化を京都の方々との交流の中で発信していくことにこそ真価があるのではないか。
京都学生祭典の目指す世界への「文化」の「発信」は、「形を持たないが京都の人々の中に生きる文化」を、「地域の方と外国の方との交流の中で発信」することであり、そうした意味で京都学生祭典を京都が誇る文化を世界中に発信していけるお祭りにしたい。
自分の考える、理想的な京都学生祭典の国際交流戦略とは、大学生が楔となって、地域の方々と、日本に来た外国人とを繋ぎ、地域の方にはもっと外国人に対して知ってもらい歓迎した気持ちになってもらい、外国人には地域の方との交流の中で単に京都観光をするだけでは味わえない人の中に生きる京都文化を学び、より日本を好きになってもらう。
そして大学生は両者をつなぎ合わせていく上で京都の文化や外国の文化について考え行動し成長することである。

〇上記の状態になった時における SOIC が担っているであろう役割

・京炎 そでふれ！というおどりを「一緒に」踊ることを通して、京都の留学生・外国人に、単なる観光では伝わらない京都・日本人の根底にある「和」の文化を実感してもらうサポートを行う。
・京炎 そでふれ！を祭りでおどることで、日本の「ハレ」という、非日常空間である祭りならではの、日本独特の一体感を持ったパワーを感じてもらい、留学に日本文化としての「京炎 そでふれ！」にドハマリしてもらうサポートを行う。
・おどり手、実行委員、地域の人、などすべての人に、京炎 そでふれ！というおどりを通して、国際交流に対する心の壁を取り払い、国際交流の楽しさを知ってもらうサポートを行う。

〇そのためには現状は何が足りない？

去年の活動のどこがよくって、何が悪くって、結論としてどういった活動をしていけばよいか。

・チーム訪問での SOIC の活動の紹介・募集は成果があり、行なってよかった。
・「京都で」行なうのか、「京都から」発信するのか、意識共有ができていなかった。
・組織内の役割構成の徹底不足。機能しなかった。
・留学生情報の管理不足→人事的な？
・留学生が、そでふれをする目的として「おどり」ばかりを考えていて、「交流」要素を重視していなかった。
→組織体制が、初年度ということもあり未熟だった。

・おどり手へのフィードバックの仕方が分からなかった。
・国際的なイベントが無いときに、イベントを作ればよかった。暇で中だるみした。
・イベント探しを途中で中だるんでしまった。
→やり方分からなかった。新しい選択肢を生み出せたことは成果だが。

・SOIC としての留学生に貸し出す足袋など備品がなく、困った。
→備品を SOIC として準備すればよかった

・参加するイベントやたらいけばいいというわけではない。
・おどり教室はおどり手交流もでき、呼ぶべきだけど、おどり教室だけではコンテンツが足りない！
・芋づる式は大事。ハマった留学生に留学生を読んでもらおう。
・ぶっちゃけビラ張りはストレス感じる割に効果薄い。今までビラ見てきてくれたのはミレナとしーちゃんくらい？ビラをもっと手渡ししたほうが効果あるんかなぁ。効果あるのは直接渡す方！
・でも↑の 2 人が来てくれたように、ビラ張りには効果はあった！！
→広報については、模索した関係で成果が薄いものもあったが、成功したといえる。もっと効率的に出来る。

→祭りにでたことは良かった。が、もっと出来た。

○SOIC としての本年度の目標案

目標①.効果的な広報手段の模索
→学生祭典広報部との連携、Facebook コミュニティ利用方法の変更、Twitter 企画、訪問管理広報管理
目標②.留学生を受け入れる体制の強化
→チーム設立説、おどり手のパーティに参加させる説、人事班設立説、全体練誘導説、おどり教室もっと頑張れ
目標③.おどり手国際交流推進計画
→おどり手のパーティに参加させる説、全体練とかに留学生を参加させてあげる説、俺達がイベント開く説、

以下、具体的な目標達成手段について、検討する。

●チーム設立説

昨年度の反省の非常に大きなところとして、
<u>・留学生を呼べたが、コンスタントな活動がおどり教室しかなかったため、帰属意識を生み出すのが難しく、多くの一見様を産んでしまった。</u>
というものがある。
また、

・SOIC 練のような個人対応練習を開いても、留学生はお客様になってしまい、共に作る仲間感、一体感ある練習を作るのが難しくなってしまう。
という問題もあり、コンスタントな活動として、個人対応練習のようなものを創るのは目指すものと異なる。

そこで、新しい取り組みとして、
SOIC サポートのもとに、留学生チームを設立してはどうか、という可能性を検討したい。

どういったものかというと、現在存在するホストチームのような、コンスタントな練習を行い、地域のお祭や、イベント、全体練などに参加する、普及部から独立した組織を作ろうというプランである。

大きなタスクとしては、
スタッフ（※）を中心とした、メンバーを集めのための広報活動、
スタッフ（※）中心に週 1 程度でコンスタントに練習を行い、
また場合によっては、SPver のみならず時にはオリジナルのようなものを作成する。

そして、※としたように、SOIC メンバーを中心に、練習班・広報班のような班を作り、
運営者は SOIC メンバーと留学生有志を想定している。

オリジナル作成については、京炎 そでふれ！SPver しか踊らない場合、コンスタントな練習をしているとやることがなくなり、モチベーションも上がりづらくなる。その解消や、京都×各国の特色を織り込んだ国際 Ver のようなものを創ることが出来るのは SOIC だけであることなど、意義は十分にあると考える。
しかし、タスクの重さが非常に重く、また、SPver でさえ、留学生の滞在期間によっては覚えることが難しいため、やるかどうかは非常に要検討。

☆成果
・コンスタントな活動による、留学生の帰属意識増、一見様の減少
→目標②に繋がる
・共にチームを作ろうという意識により、留学生の積極的参加を狙えるのでは
→芋づる式メンバー獲得？目標①に繋がる
☆リスク
・チームの運営は、非常に、非常に負担。
・オリジナルを作るなら、さらに負担。
・中途半端にやると、逆に適当な組織という印象を与えてしまう。

●おどり手パーティ・全体練参加誘導説

来年度からは、
・おどり手のパーティ（普及部主催のそでふれ誕生日・クリパ・決起集会、等）に留学生も招待する。
また、
・全体練に、留学生も参加可能にする
ことに挑戦したい。

これは、おどり手が留学生と交流し、国際意識を育む機会が去年は乏しく、また、SOIC の認知度も本年度は非

常に低かったのでその打開を狙ってのことである。
パーティについては普及部と、全体練についてはれんじゃ~と要連携である。
しかし、行なうに、非常に容易いので、是非取り組むべきである。

☆成果
・おどり手が留学生と触れ合う場が生まれ、おどり手の国際意識が向上する。
→目標③に繋がる
・留学生にとっても日本人と触れ合う場が生まれ、帰属意識が向上する。
→目標②に繋がる
☆リスク
・普及部・れんじゃ~との共有不足が起きた時、留学生に指示が通らない、おどり手とのスムーズな交流が生まれない、など、問題が多く発生する。
・SOIC がうまく潤滑剤になれなかった時、逆におどり手にとって国際への敷居が高くなりかねない。

●SOIC 国際交流イベント開催説
ハロウィンパーティ・イースターパーティ・Welcome パーティなどのパーティを、国際交流目的で SOIC 主催のもとに行なうという可能性である。
SOIC として、国際交流パーティに参加することはよくあるが、それを自分たちが主催することで、おどり披露などを行なってもらったり、ムービーを流したり、よりそでふれ色の強い国際交流パーティを開くことが可能になる。
また、ハロウィンはともかく、イースターなどは日本に馴染みが薄いので国際文化紹介にもなる。
普及部には企画運営のノウハウが有るため、連携して行なうことで実行も決して不可能ではない。
実行委員も非常に呼びやすく実行委員会と留学生の一体感も生めるよ！
企画内容次第では、既存のイベントと統合させることが可能。
なお、2 月 22 日は SOIC 誕生日。

☆成果
・おどり手と留学生と繋ぐ、楽しい場になる
→成果③に繋がる
・新歓の場として位置づけることで、留学生にそでふれの世界に入りたいと思ってもらうきっかけになる。
→成果①に繋がる
・イベントとして、留学生の帰属意識を向上させるチャンスになる
→成果②に繋がる
☆リスク
・イベントに留学生・おどり手をどれだけの人数呼ぶことが出来るか。開催時期に非常による。
・外部広報するイベントにするならば、普及部・祭典との連携必須。
・コストの申請はしっかり必要。

●人事・広報班設立説
組織改善案の一つである。
昨年の、
・誰がどの留学生の対応をしているのかが、不明瞭になることがあった。

という反省を踏まえ、
人事班のような班を設立するものとする。
この班は、留学生の管理・情報共有を主な仕事とする班で、
・班長は各留学生につき、誰が対応するかを割り振り、管理を行い、尻叩きも行なう
・班員は、練習日程・持ち物等 ML を翻訳して留学生に送る、練習やイベントに誘う
ことを仕事とする。
留学生が、練習日程を知らなかった、持ち物に不備があった、などということが無いよう、責任感が求められる仕事である。

また、広報班についても、昨年度便宜上存在していたものをしっかりと班にしたい。
この班は、留学生を対象とした新規メンバー獲得のための広報活動を行なう班で、
・班長は、留学生を対象とした広報活動の可能性について考え、また、ビラ・ポスター貼りなどの指示を行う
・班員は、広報物作成や、広報活動の際、中心になって管理を行う。また、SNS 管理も行う
ことを仕事とする。

☆成果
・成果、という問題では無いのかもしれない。必要だろう。
→成果①、②につながる。

●学生祭典他部署連携

昨年度、有効に働かなかったものに、Facebook の KIF fun community がある。
これは、京都学生祭典として一体感を持った国際化に取り込むことを目的として、京都学生祭典の各部署が獲得した留学生を一つのコミュニティでシェアし、お互いの広報の協力関係を創るというものである。
昨年度は、
・創立時（2013 年 4 月頃）に、広報部が機能していなかった
・他部署が国際化に取り組んでいなかった
という事情があり、機能しなかったが、今年こそは機能させたい。
ただ他部署の国際化の取り組み意欲があまり無さそうなので、先導。

また、広報について、京都学生祭典実行委員会の広報部と協力し、
・留学生向けの英語の Web ページ作成
・広報物配布の際に、英語の資料を共に送付してもらう
など、行えることが多いであろうから、広報部との連携は必須である。

以上を踏まえて、本年度の組織体制について考えた。

本年度 SOIC は、
SOIC 統括（1 名）
SOIC 副統括（1 名）
広報班（若干名）
人事班（若干名）

オリジナル・練習班（若干名）※オリジナルを作るなら
というメンバー構成を考え、

また、各班長と SOIC 統括か副統括は、おどり普及部に所属しているべきである。
以上を目指して、新メンバー募集を行う。

上記について、昨年度方針が分からなければ理解できないところが多いと思われるので、昨年度方針を添付する。
手順などについては、無駄だと思われるところはコメントを付けた。

以下修正引用

〇おどり普及部としての当面の目標
・京炎そでふれ！の留学生、もしくは海外へのさらなる普及
・おどり手の国際交流への意識を高め、活動に加わってもらうことで成長を促す。

以下、それぞれについて詳しく整理する。

●「京炎そでふれ！」の「留学生、もしくは海外へ」のさらなる「普及」

要素ごとに、整理する。

〇「京炎そでふれ！」について

留学生に伝える「京炎そでふれ！」とは何か。安直に考えるなら、おどり手が全員踊れて一体感を得やすく、京都らしさも曲振り衣装全てにおいてわかりやすい「SP ver.」、もしくはそれに追加でそでふれの本質である交流を身に感じやすく簡単な「簡単 ver.」を覚えてもらうことだろう。
ただ、これについて、留学生に普及する上でいくつか問題がある。

・「SP ver.」について。これは一年間多くの留学生に教えた感想として、この踊りは難しすぎる。
留学生たちは日本人と違っていつまでも日本にいることはできず、そでふれにかけられる時間も相応に短くなってしまう。彼らに教えても、限られた時間の中では「不完全な」SP ver.しか教えることができない。
→SP ver.が難しすぎるのは留学生に限った話ではないが、より限られた時間で覚えなければならない以上、問題は深刻である。中間バージョンは本質的な動きが変わらないので難易度はさほど下がっていない。対応策としては、国際 ver.なるものを作り、より動きを簡略化する（教えやすく踊りやすいまっすぐな振りとか、あるいは昔の SP ver.ビデオのような振りにする）事もできるが Version を増やすとおどり手が教えることが難しくなるし、逆に複雑化しうる。
→妥協点としては合わせるポイントをいくつか決め細かいところにはこだわらないようにする、かなぁ。
　もっと抜本的に解決しなければならない気がする。要検討。

・「簡単 ver.」について。動かす筋肉が少なすぎ、踊っている感がない。「だれでも踊れる」簡単バージョンは、

留学生たちを交えて一体感を目指すのには向いていない。
→これについては、おどり手から簡単バージョン楽しくないとの声も非常に多くあるので、総踊りバージョンとして別に作成し、振りを整えるのも必要かもしれない。なんにせよ留学生関連の問題ではない。だれかたのんだ。

コメント [A1]: SPver でも何とかなった。が、やっぱ大変だった。簡単・中間 Ver はやっぱ違う。

○「留学生、もしくは海外へ」の発信について

具体的な方法としては
・「国際交流団体」を探し、協力を頼む
・「留学生寮」を回り、ビラ配りやポスター貼りをする。
・「国際交流イベント」に出席し、そこで披露させてもらう。その上でビラを配る。
・披露のうち、留学生や外国人の目に止まりうるものについてはそこで宣伝を行う。
が現実的？それぞれ詳しく書く。

コメント [A2]: 以下にコメントとして書くが、有意義に感じたのは国際交流イベント出席、留学生寮・センターのビラ張り程度か。もっと新しい手段を模索したい。

さきあたり、そもそも大学別の留学生は、H22 年度では、
京都大学―1530 人、立命館大学―1239 人、同志社大学―787 人、龍谷大学―493 人がトップ 4 であり、これ以下の大学は 200 人未満と大きく差がある。よって大学にアプローチを掛けるならこれら 4 つの大学が中心になるだろうからそれをことわっておく。

・「国際交流団体」を探し、協力を頼む
国際交流団体にもいろいろあり、「大学規模」のものと「行政」のものがある。

→「大学規模」のものについて。
自分は京都大学についてしかまだわからないため、とりあえず京都大学について書く。
京都大学には、国際交流センターというものが設置されており、大学をあげて国際交流を促している。その中でも、研究でない文化面での交流が、KIZUNA ラウンジという場所を中心に行われている。その運営を主に行なっているのが iAT という国際交流サークルである。かつて彩京に遊びに来た外国人も、彩蘭前線創始者のヨルディンも iAT に所属していた。ただ、実際自分はガッツリ関わってないので詳しいことはまだわからない。昨年、ミッシェルこと山岸さんが iAT に所属し、国際交流に勤しんでいたので今度会って話をきこうと思う。とりあえず、ここに行って、話せばメンバー募集はできそうではある。僕は去年 iAT の代表さんの顔にクリームパイぶつけたことがある。
またこれについては更に謎だが、京大には KIXS という国際交流サークルがある。留学生と一緒に観光、ハイキング、バーベキュー、パーティ、合宿、ランチ会などのイベントを行うサークルである。
なかなかしっかりしたサークルのようであるが、それゆえにそでふれの活動が入る余地があるかが微妙である。
逆に言えば、京大内ではこれら以外での募集は難しそうである。
立命、同志社、龍谷については全くの不明。
加えて、非常に不安定だが、国際交流サークルの中に、もしがっつりそでふれを活動に加えてくれるという団体があれば、「京炎そでふれ！いんたーなしょなる」的なチームに近いまとまりを持った集団を生むことが出来るかもしれない。それについてはあまりにも不確定なので要検討。「企業チームを作りませんか？」的なノリで、「そでふれも活動に含めませんか？」のガイドラインとか作れたら現実的になりそうだが…。

コメント [A3]: 国際交流団体と名乗る団体で、留学生をコンスタントに確保している団体はほぼ無い。無駄だった。

→「行政」の国際交流について
詳しく検討する余裕が無いので、すべて要件等という形で書く。

・KCJS
京大会館にある京都大学コンソーシアムに通う学生。Boston, Brown, Chicago, Columbia, Cornell, Emory, Harvard, University of Michigan, University of Pennsylvania, Princeton, Stanford, Washington University, Yale などからの学生で、9 月から 4 月までのプログラム。

・京都市国際交流協会
行なっている事業の中に、「多文化共生・イベント」というものが有り、茶道などを教えているからそでふれの入る余地あり？

・京都府国際センター
「異文化理解、国際交流、国際協力、外国人の生活支援などに関わる各種事業に対して、京都府国際センターは共催または後援をしています。」とのことです。切実に僕の懐を支援して下さい。
「日本文化紹介・体験クラス」というもので、編み物や舞踊を教えているから付け入る隙あり？

・WhyNot!?国際交流パーティ
「WhyNot!?国際交流パーティーは、関西（大阪、京都、神戸）で毎週開催される**関西最大の国際交流パーティー**です。**京都で開催される WhyNot!?国際交流パーティーは、毎回約 100 名が参加されます!** 外国人のお友達を探している方、外国語を話す機会を探している方、留学経験のある方、これから留学される方、国際交流に関心のある方、とにかく色んな友達を増やしたい方にはお勧めの国際交流パーティーです！WhyNot!?国際交流パーティーは、その月ごとに異なるテーマをもって開催されるので、普通の国際交流パーティーとはちょっと違ったもうひとつの楽しみがあります。WhyNot!?国際交流パーティーは、とてもカジュアルな雰囲気の国際交流パーティーなので、誰でもお気軽にご参加いただけます。(18 歳未満の方は参加できませんので、ご了承ください。)」とのことです。微妙に 18 禁なところに期待。

・大学コンソーシアム京都
我らがコンソーシアム。実は密かに留学生支援活動してるっぽいけど密かすぎ！一応住宅借りる補助とかがメインっぽいけどもしかしたらなにか発掘の余地がある？

・「留学生寮」を回り、ビラ配りやポスター貼りをする。
これは、昨年彩京前線として活動していた際に非常に可能性を感じた活動である。
地味であり、がっと人は集まらないだろうが、留学生相手なら日本人相手より人を呼べるのでは無いだろうか？
具体的には、掲示用のポスターとプリントを作成し、掲示させていただく。
具体的に京都の留学生宿舎の代表的なものを軽く探してみた。

・修学院本館、宇治分館、おうばく分館
→京都大学の留学生宿舎。踊ってたら人が増えた（体験談

・京都「国際学生の家」 HdB
→京大の近くの留学生住めるところ。

コメント [A4]: 謎だった

コメント [A5]: 国際交流会館はまじで神。留学生との窓口になってくださるので、ぜひとも仲良くなるべし。

コメント [A6]: ？

コメント [A7]: ノリが違った。そでふれはキツいかも。社会人多し。

コメント [A8]: 僕が、職員嫌いだったんで、聞けなかったけど、ここと協力してもいいかもね。でも、飲み込まれないように。

・向島学生センター
「向島学生センターは、外国人留学生・研究者及び一般学生の居住施設として利便を図るだけでなく、施設内各共用施設を利用した日常的生活交流促進及び当センターで実施する各種国際交流事業を介した地域住民との普段着交流促進を目指しています。」
とのことなので、協力願える可能性大。

本気で探すにあたり、留学生数の多い京大・立命周辺が良いだろう。
→と思ったら
大学寮
　立命館大学には留学生（交換留学生を除く）のための大学寮はありません。
とのことです＼(^o^)／

・「国際交流イベント」に出席し、そこで披露させてもらう。その上でビラを配る。

京都では様々な国際交流イベントがある。それらに申し出て披露をさせてもらえないか相談し、可能であれば披露を行わせてもらう。その際に、こんな活動をしていて、是非参加下さいとビラ配り宣伝。
→外部戦略との連携ば必要そう。また国際交流イベントの中でも、留学生歓迎パーティなら開拓の余地があるが、留学生向けの研究発表会では開拓の余地がないので、どんな国際交流イベントを攻めるかも要検討。京大には留学生歓迎披露パーティというものがあるが、彩京前線が毎年披露を請け負っているので、たぶん言えば宣伝させてくれる。

・披露のうち、留学生や外国人の目に止まりうるものについてはそこで宣伝を行う。
→文字通りである。↑と同じようであるが、それに加え各チームの新歓披露のような場所でも宣伝させてもらえたら非常にありがたい。具体的には彩京とりっつと志舞踊と輪舞曲。

○「普及」するというがそのゴールはどこなのか？

「京炎そでふれ！」の「留学生、もしくは海外へ」のさらなる「普及」と銘打ったが、普及とは何を持ってゴールとするのかを定めなければ活動に集中しにくいだろう。

現実的に考えて「普及」のステップを書くなら、

ステップ１，京炎そでふれ！について魅力を知り、SP ver.を踊れるようになってもらう。
→最低限の話。つまりは、おどり教室的なものを開き、来てもらう。そこで振り落としをし、全て落とし終わった時点でステップ１クリア！また単に振り落としをするだけでなく、そでふれの魅力を発信する説明会も同時開催すると良い(祭りの写真、演舞ムービー等)。アドレスゲットし、練習情報などを流すなどして、一見様で終わらないように。新歓のつもりで。
また、踊れるようになった人や、やる気満々の人には普通の全体練に来てもらっても良いかもしれない。

ステップ２，一緒に祭りに出る。
これは、さくよさまでにできたらいいがおそらくは早くて紀州よさこい？くらいからになるだろうか。

コメント [A9]: 場所自体は良い。今年は成果がなかった。運次第か。

コメント [A10]: WelcomeParty に参加して、広報というのが一番成果があった。ホストチームにも、ここで協力を願うのはアリ。

コメント [A11]: 是非！

お祭りの楽しさを実感し、そでふれが目指すつながりの片鱗を知ってもらう。自チームで出ず普及チームで出る踊り手もいるだろうから、彼らとともに交流し、お互いに良い影響を与え合う！

また、ステップ 1.5 的なものというか、むしろステップ 2.5 というか、に、披露に留学生も出てもらう、ということがある。披露によりけりだが、地域交流の良さや演舞による一体感を留学生に感じてもらう。

ステップ３，京都学生祭典にて演舞？共に作る？
祭典的にクライマックスは京都学生祭典に置きたい。これまでの留学生による大規模な演舞？
あるいは、留学生たちには引率も付けて、そでわ企画とかを一緒に運営し、演舞のみではなくお祭りを一緒に作ろうという方向に持っていく？ここで、地域とのつながりを感じられたらベスト。

コメント [A12]: 祭典で、「創る」か「おどる」か、どっちに重きを置くかは要検討。ただ、ひとつの節目として大事にしたい。

といった感じか。

これを踏まえて、あくまでおどり普及活動の根幹は、留学生に踊りを覚えてもらい、踊りの練習や披露を通じて京都人と交流してもらう、というところになる。
そして、それが極まるクライマックスの場を京都学生祭典本祭とする。
もし、海外遠征しようぜ！とかいう話が出たとしても、それは枝葉にすぎない。

コメント [A13]: SOIC としては、である。そういう活動も、ゆーて大事。

以上が、

・京炎そでふれ！の留学生、もしくは海外へのさらなる普及

の具体的な説明である。
もう一つのおどり普及部としての当面の目標
・おどり手の国際交流への意識を高め、活動に加わってもらうことで成長を促す。
について。

これは、文字通りであるが、ではどうやって達成するか。
基本的には、内部戦略部門など他部門と協力することが必要になるだろう。

例を挙げるなら、
・そでふれ通信にて国際交流の状況発表や、活動案内を超魅力的に書く。
・ML でさんちゃんが私と一緒に英語がんばろう！って送る。
・RD にしっかり相談し、共に発信してもらう。
・各チームに国際交流を含む交流班があるなら、交流班との協力ができないか検討する。

など。

コメント [A14]: 昨年度は、できなかった。交流班と名のついた班で国際志向があるチームはないので、そこの開拓必要。